



安藤信正の肖像

安藤の駒結び

幕末に死刑を止めた話

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

東京都荒川区南千住1-59-6-302

<http://sobanokai.my.coccan.jp/>

8月31日、「死刑をなくそう市民会議」の設立集会が都内で開かれました。平岡秀夫元法務大臣が開会の挨拶を述べた後、「死刑廃止へのみち」を議論するシンポジウムがあり、国連人権担当者からのメッセージ等が紹介されたほか、講師の神田香織さんが「安藤の駒結び」の一席を披露されました。



「安藤の駒結び」は、桜田門外の変（1860年）で暗殺された大老・井伊直弼いゐなおすけの後任の老中・安藤信正あんだんしんせい（陸奥の磐城平藩いわきたいらはんの第5代藩主）の物語です。

当時、開国か攘夷かを迫られる難局を背景に、「安政の大獄」として知られる反対派への大弾圧で、吉田松陰ら多くの政治囚が死罪となっていました。しかし、井伊大老の後を継いだ安藤信正は、意外にも、死刑に疑問を持つ心情から、その任期中一人も死罪を出すことはありませんでした。

講談によれば、死刑の執行を認める特別の石印があり、それを入れた袋の紐が簡単には解けないように結んでありました。執行までの制限時間は約30分で、その間に、何重にも結ばれた「駒結び」を解くことができないと執行は見送られたのです。

執行を迫る法務官僚に、それなら、自分で精査するから、その対象者の裁判資料を全部持ってこい、と命じて、時間切れになったという某法務大臣の逸話にも

似た話です。



10月10日は世界死刑廃止連盟（WCADP /本部：パリ）が提唱する世界死刑廃止デーです。日本でもこの日の前後に様々なイベントが行われ、東京では「死刑廃止国際条約の批准を求めるフォーラム90」が毎年「響かせあおう死刑廃止の声」という集会を持っています。神田香織さんの「安藤の駒結び」は、その集いの第一回（2005年）でも演じられた作品です。



それからも多くの法務大臣が就任し、退任していきました。死刑の執行を控えた人も、濫発した人もいました。就任早々の「失言」で執行する間もなく辞任した人もいました。

ネット上では、法務大臣が死刑を執行しないでいると「職責を果たせ！」という声があがり、執行すると「良くやった！」と快哉の声が多いのだそうですが、そんな人たちは「安政の大獄」を支持したり、安藤信正に「仕事をしろ！」と責めたてるのでしょうか。

今、「維新」や「新選組」といった言葉が飛び交っています。幕末のような政情になるほど、死刑を求める圧力も高くなりそうです。それに抗する力としても「死刑をなくそう市民会議」が、より広いステージを切り開いていかれることを期待します。（J）